



設置したばかりの水タンクの前で。



Uganda

The Republic of South Sudan

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

つなぐ仕事 -ウガンダ事業がはじまりました-

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起り、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひととき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろいろな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動を行っているスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみ! <http://www.peace-winds.org/m/>

タウトクでは毎月、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク1月号の販売部数

6,023部×3円=18,069円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票	
発行日	2016年12月17日
発行元	株式会社メディコム
振込先	株式会社メディコム
振込口座	1101601-3 179641
振込金額	¥18,069
手数料	0円
合計	¥18,069

peace winds JAPAN

タウトク medicomm inc 株式会社メディコム 月刊タウン情報トクシマ編集部

徳島市の人口とほぼ同じ、約27万人の人たちが、ほんの数か月の間に、草木だけが広がる何もない広野に移り住んできたところを想像してみてください。

それは、2016年7月以降、ウガンダ北部のピディピディ難民居住地区で起きています。急激な南スーダン難民の増加に、必要最低限の食料、水、住居、医療、学校、何もかもが不足しています。多くの支援団体が必死に支援を続けています。8月にできたばかりのこの居住地区ですが、12月には27万人が居住する、世界最大の難民居住地区の一つになりました。

ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は、この居住地区で給水・衛生支援を行うことに決めました。ひとつの町を作るにも等しい居住地区支援の中で、必死の思いでたどり着いた人たちが、これ以上生命を脅かされることなく安心して生命をつないでいくことができるように、と考えたからです。

8月の調査から4カ月、12月半ばに私たちの活動がはじまりました。クリスマス・年末年始の休暇の前に、水タンクの設置を急ぎました。高さが2mもある水タンクを区画ごとに設置し、給水トラックで毎日2回から3回の水を届けます。一刻も早く、一基でも多く、という気持ちですが、世間はお休みモードです。その上、高まる需要のため品不足となり、一帯の町から在庫がなくなってしまったのです。

業者「もうクリスマスだからみんなお休みだよ。届くのは年明けになっちゃうな」。

私「難民の人たちにクリスマスなんてないんだよ。それまでお休み気分でないにこに話していた業者は、びっくりして表情を変えました。

業者「そうだね、クリスマスどころか水がないなんて大変だね。分かった、仲間の業者たちにもかけあって何とかしてみるよ」。

それからあちこちに電話をかけ始め、「クリスマスって、何言ってるんだ! 難民の人たちは水がなくてそれどころじゃないのぞ!」、なんて先ほどの自分の言葉はどこへやら。全てのタンクを何とかかき集めて、3日後に届けて

くれることになりました。

「毎日あの丘を越えて、1kmも2kmも先のタンクまで水を汲みに行っているのよ」。

一方、居住区内の設置場所を調査で訪れた時、子どもをかかえたお母さんが遠くを指さして教えてくれました。水を運ぶジュリカンという容器は25L、つまり25kg。日中の気温は40度を超えます。もうすぐここに水タンクを設置する予定だということを伝えると、険しかった顔がぱっと明るくなりました。「もうあんなに遠くまで行かなくていいのね」。



設置したばかりの水タンクから水をくむ子どもたち。

その笑顔を見て、業者の顔を思い出しました。水タンク業者の思いを、居住地区で待っている彼女に届ける。私の仕事は彼らをつなぐ代理人なんだな、と実感した瞬間でした。

PWJは、南スーダン・ケニア・ウガンダの3か国で南スーダン難民支援を継続しています。来月もまたウガンダから活動報告をお届けします。

ウガンダ駐在 竹中奈津子



ウガンダチーム、仮設フィールドオフィスにて。

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。